

「言語こそ重要」 国際言語年に向けユネスコ発信

毎年2月21日を「国際母国語の日」と定め、言語の多様性を尊重し、母国語の使用を推進することを宣言して2000年から様々な催しを行ってきたユネスコは、今年の「国際言語年」（国連総会による宣言）に相応しい開幕イベントのコーディネーションを国連から任され、今年の2月21日に臨む。

松浦晃一郎ユネスコ事務局長は『国際母国語の日』に際して、次のメッセージを寄せる。「言語は、専門化の分析領域ではなく、社会や経済、文化生活の中核をなす問題です。それが今年、ユネスコが国際言語年に向けて掲げたスローガン『言語こそ重要』の意味なのです」

言語は、個人および集団のアイデンティティとなる基本ベクトルであっても、言語によって直面する問題は異なるのが現状だ。世界の言語約6700のうち、50パーセント以上が長期的には消滅の危機に晒され、平均すると2週間に1言語が失われている計算になる。また専門家は、全言語の96パーセントは地球人口の4パーセントによって話されているに過ぎない、と指摘する。

今年は言語複数主義に関連する国際的規範の設定に焦点をあて、ユネスコ本部で2月21日、欧州評議会とセミナーを共催する。地方語や少数民族語のためのヨーロッパ憲章、2003年の無形文化遺産保護条約などにおける法的手段を検証する。アフリカ大陸やハンガリー、ウルグアイなどの国々で実施されている言語政策も、同セミナーで討議される予定だ。

2月21日の「国際母国語の日」セミナーへの参加&問い合わせ先：

Isabelle Le Fournis, Bureau de l'information du public Tel. +33 (0) 1 45 68 17 48

E mail i.le-fournis@unesco.org

日本語による問い合わせ先：

斎藤珠里 tel: 33-1-45-68-12-25 e-mail: j.saito@unesco.org